

現在、口蹄疫からの復興のため、串間の畜産農家がそれぞれ奮闘しています。その活動をご紹介します。



現在も場内へ入る場合は洗浄を必ず行っています。



本城・崎田地区  
畜産業  
鎌田秀利さん(48歳)

### 感謝の気持ちを胸に畜産に取り組んでいます

畜産を始めて7年目になりますが、口蹄疫のときはさまざまな制限がかなり大変でした。終息することができたのは宮崎県全体が協力して対応したからだと思います。串間市での口蹄疫発生を防ぐことができたのも、そのような協力のおかげですね。しかし、まだ口蹄疫の影響は残っています。特に子牛の人工授精の自粛は、今後の出荷のバランスに関わる問題です。子牛のいない期間と、終息後の人工授精の再開による出産の増加で、子牛の出荷量が大きく変動します。このため、値段の変動や収入の偏りがでた場合、畜産経営に打撃が生じてしまいます。これらを防ぐため現在、各畜産農家では、子牛の育成期間を調整することで対応するよう努力していますが、口蹄疫以前の状態に戻るには5～6年かかるのではないかと考えています。このような状

況であるため、今回串間市が「串間市産肉用子牛導入事業」により支援する体制を作っていたことにも感謝しています。わたしたち生産者も復興に向けさらに努力していきます。

現在、10月に長崎県で開催される「第10回全国和牛能力共進会」で串間市からの出品を目指しています。このことを通じて串間市の畜産業が復興していることを、支援して下さった多くの方へお知らせできるよう努力していきます。

これからは地産地消が食肉においても重要な課題だと思います。そのためには、串間の牛肉のおいしさを地域の方々、特に子どもたちに伝えることが必要です。そのため、平成23年からは小学校での食育教室の支援を実施しています。また、畜産業においても後継者の育成は大きな課題です。特に、現在40代、50代の畜産農家の方は育成牛の割合が多い世代です。これらの世代が引退された場合、後継者が不在だと育成数が大きく減少します。このため後継者の育成は重要な課題ですが、新しく畜産を始めるにはその地域に住んでいる方からの畜産への理解と協力が非常に重要です。これからも地域の方々への感謝の気持ちを大事にしながら、牛の気持ちになって仕事に取り組んでいきたいと思っています。



# 串間の畜産復興を 目指して



宮崎県のエース級種牛である秀菊安の子牛たち。良質な体型を持つすばらしい牛たちです。

牛たちに飼料を与える鎌田さん

串間市の重要な基幹産業の一つである畜産業。その中でも肉用牛の生産においては、宮崎県家畜改良事業団でエース級種牛と言われる種牛の中に串間市生まれの「秀菊安」が入るなど、串間市は優良な牛を育てる高い生産力を持つまちです。現在、市内277戸の畜産農家が串間の畜産業を支えています。

しかし、平成22年に発生した口蹄疫により、宮崎県において約29万頭の家畜が犠牲になりました。また、宮崎牛ブランドを支えてきた種牛が5頭だけになり、新たな種牛育成には5年以上の時間が必要になるなど、大きな打撃を受けました。

幸い串間市での感染はありませんでしたが、同8月の終息宣言までの間、串間市内の畜産農家においても子牛セリ市の中止や人工授精が制限されるなど大きな影響を受けました。このため、串間の畜産においても、非常に厳しい状況が続いています。

このような状況を乗り越えるため平成23年8月および9月に、再び口蹄疫の悲劇を繰り返すことを防ぐため、串間市と隣接する日南市、志布志市との間で口蹄疫などの伝染病が発生した場合の防疫対策に取り組むための協定を結びました。

また市内の畜産農家において、牛の育成期間の調整を行うなどの対策を取るほか、串間市も平成24年2月および3月に開催される南那珂地域の子牛セリ市で販売された串間市産の肉用子牛への助成を行う「串間市産肉用子牛導入事業」を準備するなど、市全体で口蹄疫からの復興を目指し、活動しているところです。

串間市の優れた畜産業を守るため、今後も畜産農家と市が協力して復興に向けて取り組んでいきます。

